

投票率向上のための取組に係る龍谷大学の学生とのワークショップ
「議員と話そう in 京都」の開催結果について

1 日 時

平成27年1月7日(水) 午後6時～午後7時55分

2 場 所

龍谷大学深草キャンパス22号館204号室

3 参加者

- 龍谷大学の学生 20名
政策学部「伏見区投票率向上プロジェクト」のメンバー(6名)のほか、学内での募集により集まった学生
- 市会改革推進委員 4名
寺田かずひろ委員長, 加藤あい副委員長, 湯浅光彦副委員長, 片桐直哉委員

4 内 容

- 学生による選挙等に関するアンケート結果の発表(別紙)
- 学生と議員によるグループごとのワークショップ
- 各グループからの発表

5 各グループの主な意見

【1班】

<教育の観点>

- ・ 選挙権を持つ前の教育として, 例えば学校で模擬投票を実施する。
- ・ 選挙権を持つ年齢を下げる。
- ・ 若者が議員や政治について詳しく知る機会を増やす。

<興味の観点>

- ・ 若者が興味のあるマンガやアニメと政治をつなげる。
- ・ 若者は, 町内の運動会や催しにできるだけ参加する。
- ・ 議員と接するとき, 何をしてきたのか, 何をしたいのかに注目して話を聴く。
- ・ 自分のまちを好きになるにはどうすればよいか, 若者が様々な観点から自分のまちに興味を持つ。

<投票システムの改善>

- ・ 期日前投票や不在者投票は少し手間が掛かる。

- ・ ハンディキャップのある方も投票しやすい仕組みが必要ではないか。
- ・ マスコミの報道の在り方が今の状況でよいか。

【2班】

- ・ 自分たちが政策とのつながりを実感できないことが大きな問題であり，地方政治と自分たちとの関係が遠いことをどのように改善すればよいか。
- ・ 学生は，地域よりも大学というコミュニティで多くの時間を過ごしており，議員が大学に来てくれることで接点を持てる。
- ・ 実際に，議員と話をして，身近な存在であることが分かった。これをきっかけにもっと議員のことを知り，更には政策を実感することにつながっていけばよい。
- ・ 投票した後も議員に任せきりにせず，議員が何をしているかを知ることが重要である。

【3班】

- ・ 「情報を得る方法が分からない」，「どのように政治と関わっていけばよいか分からない」という意見が多かった。知る場所・知る機会をどのように設けていけるかが重要ではないか。
- ・ 投票という形で参加したとしても，自分たちの1票がどのように政治に反映されるのか，少し懐疑的になってしまう。
- ・ 期日前投票や不在者投票の制度を軸に，大学内，主要な駅，スーパーでの投票など，投票することのハードルを下げていければよいのではないか。
- ・ 政治に関心がない層に，どのように興味を持ってもらうか。自分たちの意見や思いを伝える場をどのように設けていくかが重要ではないか。
- ・ 未来の有権者が政治に興味を持てるよう，模擬投票など体験型の政治教育が必要である。大学生や若者が，授業や団体活動の一環として，そのような取組を展開できれば，政治が身近なものになるのではないか。

【4班】

- ・ 単に投票率を上げることを目指すと，1票の責任が軽くなってしまうのではないか。
- ・ 社会や政治に対して満足しているかどうかについて，不満に思っている学生が非常に多く，税金に関して恩恵を感じられないという意見が多い。しかし，実態としては，恩恵をもたらしているからこそ，国や自治体は赤字になっている。税金の見える化が重要ではないか。
- ・ 若者だけでなく有権者全体に言えることとして，選挙で選ぶ側の責任，自身の1票に対する責任をもっと感じてもらうことが重要ではないか。